

令和 5 年度 県立水戸農業高等学校自己評価表 (定時制)

目指す学校像	知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会の役割の一端を担える力を備え、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に社会に関わることができる人財の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人ひとりの多様な進路希望や学習のニーズに合わせた教育課程において、体験的な学びから知識・技術を確実に身につけ、就職から進学までの進路希望を実現する		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学科の特色に応じた専門教育に取り組む姿勢があり、チャレンジ精神旺盛で、夢の実現に向けて自ら主体的に考え行動しようとする意志を持った生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・HR、立哨指導あるいは保護者との連携等を通じた反復指導で基本的生活習慣を身に付けた生徒が増え、遅刻生徒数も2割減となった。 ・教員が授業を大切にしよう心がけた。生徒の授業に取り組む姿勢が良くなっている。 ・各科、学年、進路指導部等が一体となって指導をしたことにより、進路指導の成果が上がった。 ・感染症への適切な対応ができた。 〔課題〕 ・身だしなみ指導を中心に規範意識を高め、規則を守れる生徒を育てる。 ・各学年との連携を密にして、1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・LHR等あらゆる機会を利用して、進路情報を適切に提供する。 ・進路講話やインターンシップ等により、職業体験活動の参加者数を増やし、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。		・基本的生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成	・基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせ、身だしなみや言葉使いに気をつけることで、社会の有為な形成者としての人格の完成を目指す。 ・豊かな人間性や素直な心を育み、コミュニケーション能力を育成することで、いじめ防止につながるような、より良い人間関係の構築に努める。	A
		・基礎学力の向上と系統的な進路指導体制の確立	・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・系統的な進路指導体制を確立させ、進路に沿った支援・指導を行う。	A
		・系統的な進路指導と指導体制の確立	・生徒に適切な支援を行い、100%の進路実現を目指す。 ・就業体験、就農講話等を通して、キャリア教育の充実を図る。 ・各種資格取得に向けた取組を奨励する。	A
		・新しい生活様式を創造しながらの特別活動及び部活動の活性化とキャリア教育の推進	・成達会等の自主的活動を推進する。 ・定通体育大会への取組を通して、部活動への意欲を高めるとともに大会参加人数を増やす。休業日における部活動と勤労活動の日程のバランスを指導する。 ・生徒がHR活動等を中心として、各教科等とも往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに、対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。	A
		・健康と安全教育の充実	・生徒の心身の健康に資するよう保護者、養護教諭、スクールカウンセラー等との連携を密にする。(特別支援教育専門家との連携)	A

別紙様式 2 (高)

・道徳教育をあらゆる教育活動を通して行い、公共マナーの遵守と規範意識の高揚に努める。 ・部活動紹介を実施し部活動加入を促す。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。		・健康管理・交通安全・機械や農薬事故等の防止など、安全教育の充実を図る。 ・新型コロナウイルス感染症等の防止、健康の保持増進を図る。 ・不審者対応などのマニュアルの点検を行う。 ・自然災害等に対する具体的な行動計画を作成し、実効性ある訓練を行う。			
	・農業専門教育の充実と地域連携	・チャレンジプロジェクトへの取組を推進することで、魅力ある農業教育を実践し、農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。また、プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組みせ、学校農業クラブ活動の充実を図る。 ・開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに、地域と連携した体験学習（インターンシップ等）の充実を図る。 ・資格取得への積極的な取組と合格率の向上を図る。	A		
	・保護者や地域から信頼される学校づくりの推進	・HP等を通して学校の教育活動を積極的に広報し、学校・家庭・地域社会の連携の下、開かれた学校づくりを推進する。 ・地域市町村の催事に積極的に生徒を派遣し、地域との協力体制を構築する。 ・敷地、施設・設備の公開及び貸し出しにより、地域活性化の拠点となる。	A		
	・学校施設設備の充実	・学習効果の向上に繋がるよう、学校施設の更なる整備・充実を図る。	A		
	・アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善	・教わる授業から学び取る授業へとつなげるため、ICTの活用や、地域の特長を生かした地域社会との交流を通し、課題を見だし解決策を講じるなど、自己の考え方を広げ「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげる。 ・授業満足度（KPI）80%超を目指す。	A		
	・働き方改革の推進	・学科や部門ごとに業務内容の見直しやICTの活用等による事務の効率化を図り業務量の削減に努める。 ・教職員の健康を守るため、教育環境の整備を図るとともに学校運営の在り方等を見直し、定時退勤日の設定や時間外在校等時間の縮減に努める。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教務部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究 基礎学力の向上	教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。	B	A	定時制の生徒の特性に配慮し、個別最適化を図るため、授業改善を継続して行う。
		タブレットを活用した授業の充実及び効果的な活用方法を研究する。	A		
		授業研究（授業参観等）を実施し、授業内容の充実を図る。	B		
		授業に対する取組方法や授業改善計画を基に、より一層質の高い授業を展開する。	A		

別紙様式 2 (高)

	広報活動の充実	観点別評価を基に、評価の適正化を進める。	A		定時制の現状と特徴をしっかりと伝え、ミスマッチをなくす。
		資格取得に向けての取組を強化する（全体計画・指導計画の検討）。	B		
		学校見学会、学科体験を充実させていくことで学校外へ積極的に情報を発信していく。	A		
		積極的に中学校訪問を実施し、定時制への理解を促す。	A		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	立哨指導等を通して、挨拶の励行や身だしなみを整え、学校生活における基本的生活習慣の確立を図る。	B	B	・身だしなみ指導、遅刻指導の徹底 ・安全教育講習会の実施により、ヘルメットの着用率の向上及び交通安全意識の醸成 ・SC・SSW等の積極的な活用 ・GoogleForms等を利用したアンケートの実施
		ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ、生徒の生活改善を図る。また、授業の遅刻を防止し、時間の大切さを身に付けさせる。	B		
	安全な学校生活環境の維持	立哨指導等を通して、登下校の安全を確保する。また、自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。	B		
		各種啓発教室や講話を通して、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。	B		
	心の教育の推進	農業教育や道徳教育を通してモラルの向上と命の大切さに気付かせる。	A		
		教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。	A		
	いじめ防止対策	未然防止として、授業やホームルーム活動等を通し生徒の規範意識を高めさせる。	A		
		早期発見として、アンケート調査を実施し実態把握に努める。	B		
		早期解消に向け被害者を保護し、保護者や警察、相談所等と連携し、速やかな実態把握及び加害者の対応にあたる。	A		
	特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部の活動も活性化を図る。		
活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。			B		
部活動の活動場所や時間帯について、全日制との調整を図る。			A		
ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。			A		
キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進		HR活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる	A		
学校行事の充実		各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A		
成達会活動の充実		ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	B		
教職員の働き方改革の推進		部活動月間計画表に予定・結果を入力することで、休業日の確保に努める。	A		
進路指導部	系統的な進路指導の充実 （多様な進路実現への対応）	4年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。	A	A	・週三日登校の4年生に対する指導には見通したた指導が必要・進路に対する生徒への早期支援を充実させ目標を早めに設定させる・各々の特性に合わせた継続的な個々の
		学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。	A		
		各種進路情報の収集、積極的活用、情報の共有のために全日制との連携を図る。	A		
		係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	A		
	進学指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。	B		
		進学対策のための課外を実施する。	B		

別紙様式 2 (高)

	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。	A		進路指導が必要
		積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	A		
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	A		
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断の実施とともに、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。	B	B	本校の健康課題を明確にし、保健だより等で周知指導していくことや個別指導を充実させていくことが課題である。 校内ガイドラインを見直し、毎年ブラッシュアップしていくことが課題。 積極的なスクールカウンセリングを活用していくことが必要。 引き続き全職員で指導・監督の徹底に努める必要がある 本年度は、地域との連携ができなかったので、来年度はその計画をする必要がある。 衛生委員会等でどのようなことができるのか検討していくことが課題である。
		感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A		
		生徒の安心・安全のため、スクールカウンセラーなど関係機関との連携を図る。	A		
	校舎内外の学習環境の安全と防火防災対策の徹底	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	B		
		地域と連携した防災訓練を実施する。	B		
	教職員の働き方改革の推進	教職員の健康を守るため、教育環境の整備を図るとともに学校運営の在り方等を見直し、定時退勤日の設定や時間外在校等時間の縮減に努める	B		
		教職員のストレス軽減のために、相談体制の拡充を図る。	B		
図書部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門高校として、関係書類の整備に努める。	B	B	・図書館利用者を増やすために、授業での活用も促す。 ・図書委員の活動を活性化し、環境美化に努める。 ・図書委員による企画を実施し、生徒主体の活動を推進する。 ・視聴覚機材の更新と電子黒板の導入。
		職員研修の成果として、紀要を発行する。図書・視聴覚資料等の整備に努める。	A		
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。	B		
		図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	A		
	視聴覚機器の充実と利用	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	B		
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室や閲覧室の学習環境の整備を図る。書庫の書籍の管理環境を改善する。	B		
	司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・ビデオ等の除籍作業をし、蔵書点検を進め書籍の管理を図る。	B		
渉外部	本部役員・学年委員の連携とPTA活動の充実	各PTA行事において、本部役員と学年委員の連携を図り、PTA活動の充実を図る。	A	A	本部役員に負担がかかりがちなので、学年委員との連携をどのように工夫するかが課題である。 今年度の事業を継続するにあたり、学校・生徒のための活動内容を充実させることが課題である。 どのような立哨指導が必要か、実施方法の検討が必要である。 保護者の参加率を維持するために、引き続き工夫をこらす必要がある。
		PTA活動の精選と内容の充実を図る。	A		
	校外生徒指導の実施	校門での登校指導を多くの会員で実施していく。	B		
	主催行事の充実	水農祭・公開講座・研修会等の本部主催行事は工夫を凝らし、安全で安心できる環境を整え参加率を高める。	A		

別紙様式 2 (高)

	広報活動の充実	広報紙・HP等での行事の案内や報告等、スピーディーで、わかりやすくPTA活動を広報していく。	B		個人情報の観点から、広報誌の今後の在り方を見直す必要がある。
農場部	農業後継者・農業関連産業従事者の育成	校外実習体験活動を再開させ、交流活動をととしてコミュニケーション力を向上させる。	B	B	校外実習の再開ができず、代替案の検討がひつようである。
		各種の資格取得率で昨年度比 100%以上の合格者数を目指す。	B		
		プロジェクト学習や発表会への参加を促進し、入賞者数を増やす。	A		
	地域交流の充実	幼保小中学校等に体験活動の場を提供し、交流活動や地域連携の継続発展を推進する。	A		地域連携の機会を積極的に展開する必要がある。
		産官学連携を推進し、地域資源開発や地域活性化に向けた学習活動を推進する。	B		
		直売会を年間 10 回程度開催し、生産物の販売をととして地域活性化に貢献する。	A		
	スマート農業へ実現化	老朽化する施設設備の更新を促進し、スマート農業に対応した農場を目指す。	B		農業授業でのタブレットの利用率を上げる。
		授業におけるタブレットの積極利用やデジタル情報の共有化を促進する。	B		
1 学年	良好な人間関係の構築と基本的な生活習慣の定着	良好な人間関係の構築のため、授業やホームルーム、集会等を活用して、個人の多様性を認め合い、コミュニケーションが活発になるように努める。それにより、基本的な生活習慣の定着に努める。	B	B	様々な手法を取り入れ、個人の多様性を認め合えるよう努める。
	進路実現に向けたキャリア・パスポートの活用	基礎力診断テスト、性格適性検査をもれなく実施し、振り返りを行い、基礎学力の向上に努める。進路指導部等と連携を図り、進学・就職に向けた講演、グループワーク等を実施し、その都度、進路の手引き等を活用し、キャリア・パスポート作成の一助とし、自己肯定感を高め進路実現につなげる。	A		クラッシーの導入し、今年度以上に活用していき、基礎学力の定着を目指す
	積極的に活動に参加する生徒	農業クラブ活動をはじめ、部活動、ボランティア活動等への積極的な参加を促し、地域社会で必要とされる人財の育成を目指す。	B		各クラスで積極的に活動できる生徒を抽出し、クラスをけん引できる人財をつくる。
2・3 学年	基本的な生活習慣と適切な人間関係の構築	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、引き続き服装頭髪指導を行う。遅刻・欠席指導を通して、規範意識や社会的マナーを身に付けさせて基本的な生活習慣を確立させる。	B	B	指導案件が多発して特別指導を受ける生徒が多くみられた。日々の働きかけや意識向上への声掛けの実施を実施したい。
	学習の習慣を身に付け、基礎学力の向上を目指す。	常識力・基礎学力の向上を目指し、SPI 問題集や課外授業を計画的に実施して、学習の習慣を身に着ける。	B		学習の習慣を身に付けることを目標としたが、学力の向上は困難であった。今後は問題集や外部の模試などを活用して、学習の習慣が身に付くようにしたい。
	進路指導の充実	進路ガイダンスや体験学習を通して、進路希望を明確にさせるとともに、能動的に取り組む姿勢を醸成し、希望進路未定者率を 10%以下にする。	A		進路ガイダンスや小論文の課外を通して進路の意識を高めることができた。今後も生徒の希望に合わせた指導に取り

別紙様式 2 (高)

					組みたい。
卒学年	進路希望の実現と基礎学力の向上	自己の進路実現のための目標を立てさせて、個々の進路に応じた進路指導を行う。	B	B	生徒の希望に合わせた個別の就職及び進学指導が必要
		各教科の授業と課外学習を通して基礎学力の定着を図るとともに、面接指導も充実させる。	A		
	基本的生活習慣の定着	家庭との連携を密にして、無断での欠席・遅刻・早退を防止する。	B		日々の徹底した働きかけと、保護者との連携
		進路について意識させて、望ましい態度や正しい言葉遣いなどができるようにする。	A		
	規範意識の高揚	卒業学年であることを自覚させて、目標をもった日常生活が送れるよう促す。	A		意識向上へのガイダンスの実施、および生徒自身の自己評価の充実
		ルールを守ることの重要性を認識させ、自ら善悪の区別ができるようにし、社会人としての自覚を持たせる。	B		
農業科	農業教育の充実	農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高めるとともに専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A	A	継続的にプロジェクト学習に取り組み情報発信を行う。
	基本的生活習慣の確立	規則や時間を守り、自立できる基本的な生活習慣を育てる。教師側も時間を大切にした授業や実習を行う。	B		各教科において遅刻防止や身だしなみ等の決まりを生徒にも分かりやすく繰り返し周知する。
	進路希望の実現	専門的な分野の知識を定着させるため資格や鑑定競技などに積極的に取り組む。	A		ICTなどの活用も行い、早期に進路意識の醸成を図る。
	学習環境の安全と美化	農場の整理整頓に努め、SDGsを意識したごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	A		安全管理を徹底するとともに、持続的な取り組みを行う。
	体験学習等の充実	インターンシップ等の体験的な活動を通し生徒に自信を付けさせる。	B		より多くの参加者を募る。
	観点別評価のさらなる推進と授業の改善	指導と評価の一体化による授業改善や生徒の学習意欲の向上を図る。	B		繰り返し評価基準を伝えることでクラス全体の意識向上を図る。
国語科	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。	A	A	教材研究や教員間での情報共有を徹底し、個に応じた指導の充実を図る。また、ICT 機器を活用し、生徒が主体的に学べるような学習を充実させる。引き続き言葉の力の育成に努める。
		授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。	B		
		漢字力向上のため、読み書きを授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため、繰り返し自ら練習する姿勢を身に付けさせる。	A		
	表現力の向上を図る授業改善（進路対策）	目的や場に応じて、自分の考えを文章にまとめる力を育成する。	A		
		生徒の様子を踏まえ、進路に応じた個別指導を充実させるための授業改善を行う。	A		
地歴・公民科	歴史的過程と地域的特色の違いを現代社会の問題解決につなげる授業改善。	新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝えるための授業改善をしていく。	A	A	史料をもとに生徒が調べたり、まとめたりするような活動を充実させる。
		基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A		
	主権者としての自覚を涵養するための授業改善。	時事問題などを教材として積極的に取り入れ、社会的な関心を喚起するための授業改善をする。	B		
		定期的な小テスト実施で、必要な基礎的な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	A		
数学科	基礎学力の向上と、わかりやすい授業展開のための授業改善	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し授業改善に役立て、生徒の実態に沿った授業を展開する。	A	A	効果的な ICT 活用についての研究とその共有。

別紙様式 2 (高)

		基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 進学希望の生徒に対して、個別に就職試験対策の課外を実施し対応する。			数学検定受検希望者を増やす。
	数学検定資格取得の奨励	学期に 1 回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	B		
理科	教員の指導力の向上と授業改善	積極的な授業公開や授業内容や指導法について情報交換を行うことで授業改善を図り、自己研鑽に努める。	A	A	各教員が独自で工夫した教材や授業内容、指導方法についての情報交換の充実。特に進学希望生徒に対する指導に關しての進路指導部との連携。
	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	A		
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と理科の関連性を理解させる。	A		
	進路指導への積極的な関わり	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	B		
保健体育科	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。	A	A	集団行動を徹底し、授業の開始と終了の規律をもって授業に取り組めるようにする。
		集団としてのきまりを守り、活動できる体育学習を展開する。	A		
	授業改善	目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	B		
芸術	芸術の興味関心を高めるための授業改善	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。	A	A	生徒の感性を育てるための教材を研究し、個に応じた教材を精選する。
		目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	A		
英語科	基礎学力の向上	教科書やノートの準備等、授業に臨む態度を確立させる。	A	B	基礎的な英語力の定着と自発的な学習態度の向上を目指し、アプリ等の ICT 機器のより一層の効果的な活用を目指す。
	モチベーションを向上させるための授業改善	A L T を活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。	B		
		簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めるような授業を行う。	A		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。 S T E P 英検等、より上位の資格取得を奨励する。	B B		
家庭科	家族・家庭、地域社会の課題を主体的に解決する能力、人間性等を涵養する学習指導（授業改善）	基礎的・基本的な知識や技能の習得を図るとともに、I C T の活用、グループワーク等を活用し、生徒主体の授業改善を行い、生徒の人間性等の涵養に努める。	A	A	適時適切な I C T の活用場面、グループワークの設定場面の工夫がさらに必要である。
	家族・家庭、地域社会の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	生徒の興味・関心を高める課題設定を行い、家庭生活や地域社会をより身近な問題として自分事と捉え、その解決のための実践的な態度を養う。	A		実践的活動の設定場面、実施方法の工夫がさらに必要である。

※ 評価規準：A（よくできた）B（普通）C（不十分である）